

「森孝西小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和2年1月29日（水）に森孝西小学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝西小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年1月29日（水）19：00～20：20

場所：森孝西小学校体育館

参加人数：40人（保護者22人、地域住民18人）（森孝西36人、本地丘0人、森孝東4人）

区分	森孝西	本地丘	森孝東	合計
保護者	21人	0人	1人	22人
地域住民	15人	0人	3人	18人
合計	36人	0人	4人	40人

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- ・少子化が進んでいる以上、老朽化問題も含め統合することには賛成だが、新築するのであれば、魅力ある学校づくりをしてほしい。他県では公立の小中一貫校で人気のある所は、わざわざ転居して通学を希望する人もおり、転入が増えている。そんな地域になるように願う。
- ・教育環境が良くなるのであればよいと思う。新しい建物や教材、ITの活用など新しい環境で学習できるようになるのであれば、勉強への意欲も向上すると思うのでできる限り早く統合してほしい。学習環境がよければ人も集まるのでは、と思った。
- ・少子化で3校の統合は残念だが、仕方ないと思う。親である私も森孝西小の卒業生なので淋しい。
- ・今日の説明資料は、小規模校の良さが3つしか書かれておらず、3学区にとってとても失礼だと思う。小規模校が悪くて大規模校がよいようである。

- ・少人数の方がきめ細やかな指導ができ、子どものためになるのではないか。
- ・1 クラスだからクラス替えができないというのではなく、例えば26 人でも13 人ずつのクラスで勉強できるよう名古屋市は予算をつけ、クラス替えをすればよい。
- ・小学校3 校のみの統合は考慮しないのか。できたら統合には反対の意向。
- ・統合校の教員はどう配置されるのか。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）の3つの小学校では、それぞれ小規模校のよさを活かしながら保護者・地域の皆さまに支えられて学校運営が行われていると考えており、統合に向けては、3校それぞれの良さを引き継ぎ、さらに発展する形で、また施設面での充実等も図りながら新しい学校を創っていけるよう取り組んでいきます。
- ・本市では、小学校1年生・2年生での30人学級、小学校3年生以上は40人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる12学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。
- ・森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、①森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。②3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となることです。なお、森孝東小での統合を想定した場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離は2.2kmとなります。
- ・統合校への教員の配置に際しては、児童・生徒や保護者・地域等を理解した教育が継続できるよう、統合前の学校の教員をバランスよく配置できるようにします。

2 統合（案）に関すること

（1）通学距離・安全対策

- ・通学路について、今でも歩道がなく狭い道路があつて危ない。統合した場合の通学路の安全対策について、スクールゾーンを設ける、時間帯規制するなど、どのようなことを考えているか。
- ・1.8 kmの通学距離を夏の暑い日に荷物を持って通学するのは、小学1年生にとっては相当な負担である。本地丘学区は坂もあるが、実際に歩いて確かめたか。
- ・スクールバスは検討するのか。
- ・学校が遠いことで不登校の子が増えそうに思う。

教育委員会の考え方

- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもたちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えています。
- ・通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物の問題や熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・なごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。
- ・本市では、小学校の通学は徒歩を基本とし、概ね2kmを目安としています。市内には通学距離が3kmを超える学校もありますが、スクールバスは運用していません。（特別支援学校でのみスクールバスを運用しています。）。3つの学区からはいずれもこの目安の距離を超えないことから、まずは子どもたちが徒歩で安全に、また安心して通学できる方策について検討したいと考えています。

（２）小中併設の学校運営

- ・統合して義務教育学校になるのか。
- ・9年間の義務教育学校にするわけでないなら、小中併設にしないでもいいのではないのか。

- ・小学校と中学校が一緒になった場合、どのような影響が考えられるか。例えば、中学生のテスト期間中に小学生が遊んでいると騒がしいなど。
- ・小学校と中学校が一緒になると同じ人間関係が9年間続くことになるので、かえってトラブルが増えることにならないか。
- ・小学校・中学校が統合された場合の部活動や行事は、小中合同なのか。
- ・学校行事は同じになるのか。どこまでが同じなのか想像できないので不安。
- ・小学校の児童と中学校の生徒が一緒に過ごすことになるので、そこが一番心配。いじめなど。
- ・名古屋駅周辺の学校とは違うので、学校が荒れた場合、小学生は荒れた中学生の影響を受ける。
- ・笹島小中の運営の状況を知りたい。チャイムなどはどうしているのか。
- ・笹島小中学校を具体例に出しているが、生徒数が違いすぎて、比較しての検討は無理があると思う。
- ・PTA活動は、統合したことによりどのような変化があったのか知りたい。小中併せてのPTA活動なのか、小学校のみ・中学校のみでのPTA活動になるのか。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示ししましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・義務教育学校とは、修業年限を9年とする小学校、中学校とは別の校種の学校ですが、現在名古屋市立学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点が共通していますので、今後、義務教育学校も参考に、小中一貫教育のあり方について検討していきたいと考えています。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。
- ・笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が違うため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する（学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。）、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。
- ・小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、令和元年度開校した他都市の義務

教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見ているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりやすい体制であるとのことでした。

- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営・PTA活動等を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

(3) 施設整備

- ・小学校の校舎と中学校の校舎は分かれているのか。敷地が同じだけで別々になっているのか。
- ・小学校と中学校が一緒になった場合、体育館などを共用するのか。
- ・森孝中学校で小学校と中学校が一緒になると運動場が狭くなるのではないのか。校舎は建て替えるのか、改修するのか。
- ・小学校・中学校の施設の運動場の区別等は。
- ・統合後のクラブ活動はどこで行われるのか。
- ・統合により校舎の改築・改修となっているが、既存の校舎を利用するのか。築40年以上となるため、耐震性能は大丈夫か。教室を増やすことで、耐震強度が下がるのではないのか。
- ・今の時代にあった少子化、温暖化、過疎化に対応していける学校施設を。
- ・校舎の設計は誰が中心になるのか。せっかく3校が一緒になるので、各小学校の代表者（児童3名から5名）が集まって、ほしいもの、こうやりたいなどのアイデアを形にしてはどうか。
- ・工事期間中、中学生はどのように過ごすのかも併せて知りたい。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要と考えています。
- ・どのような校舎配置とするのか、体育館や特別教室などの利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。
- ・他都市の学校や笹島小中学校では、跡地となった小学校を中学校部活動等のため第二グラウンドとして利用している例もあります。こうした事例も参考としながら、施設整備の検討をしていきたいと考えています。

- ・整備に当たって子どもたちにアイデアを出してもらうというご提案については、参考にさせていただきたいと思います。
- ・整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・今はステップ1との説明だったが、ステップ0に戻る、つまり計画がなくなることはあるのか。
- ・統合の具体的なスケジュール感を知りたい。何年ぐらいで統合するのか。また、体操着等の学校指定の用品は買い直しが必要になるのか。
- ・スケジュールの見通しを知りたい。
- ・令和2年度に森孝西小1年生になる子どもを持つ者にとって、この席のプランが具体的に早めに示してもらえると安心する。
- ・説明会を密にやってもらいたい。
- ・こういった意見を聞く会は、各学区、最低3回以上は必要ではないのか。
- ・意見交換会の意見は「たより」にするとのことなので、必ず、「たより」にまとめて配布してほしい。

教育委員会の考え方

- ・ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画では、小規模校をクラス替えのできる望ましい学校規模にしていくことを目指していますが、将来的に子どもの数が増え、クラス替えのできる規模となる可能性のある学校については、推移を見守り、取り組みの必要性を見極める必要があると考えています。こうした中で、森孝中ブロックの3つの小学校は今後も小規模の状態が続いていくと見込んでおり、森孝東小、本地丘小ではそれぞれ単学級のある状態が解消する見通しももてないため、小規模を解消するため、3つの小学校の統合を進める必要があると考えています。
- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・体操着等の学校指定の用品については、ステップ5において、保護者・学校・地域の皆さまと協議していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向

けまして、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。

- ・これからさらに検討を進め、統合に向けた具体的なプランをお示ししたいと考えています（ステップ3）。その際には、今回と同様に説明会を開催し、ご意見、ご要望をお伺いしながら進めたいと考えています。

4 地域に関すること

- ・子どもが増える町づくりはしないのか。マンションを建てるなど家族が住める場所を作るなど。
- ・本地荘や香流荘はすぐ近くに保育園と小学校がある状態である。小学校が遠くになると若い世帯が入居しなくなり、市営住宅がゴーストタウンになる恐れがある。街が廃れてしまう。

教育委員会の考え方

- ・小規模校では、新1年生の人数が、前年度5歳児であった子どもの人数を下回ることが多く、結果的に児童数が増えていかないという傾向があります。教育委員会では小規模校を解消し、子どものよりよい教育環境を整備することにより、児童数の確保に向けて取り組みを進めていきたいと考えています。

5 跡地に関すること

- ・森孝西小では体育館や運動場を地域が利用しているが、統合後も引き続き利用できるか。跡地の利用計画について知りたい。

教育委員会の考え方

- ・森孝西小の施設は生涯学習開放を実施しており、地域の皆さまにご利用いただいています。
- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。

6 特別支援学級・トワイライトに関すること

- ・特別支援学級の設置は引き続きあるのか。
- ・トワイライトも中学校で行われるのか。
- ・トワイライトは1つになるのか。
- ・トワイライトにお迎えにくる親は、保育園とトワイライトの両方に行っており、かなり不便になる。

教育委員会の考え方

- ・現在、3つの小学校（中学校）において設置されている特別支援学級や、通級指導教室については、統合校にも引き継ぎ、設置するよう検討します。
- ・トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることになります。
- ・統合を進めるにあたっては、トワイライトを所管する子ども青少年局に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。